

平成30年3月19日  
大学改革支援・学位授与機構  
職員研修

# 大学の現場から見た 内部質保証

研究開発部  
竹中 亨

# 責務としての内部質保証

教育機関の責務

≠ 「命令」 「依頼」

教育の質に対する第一義的な責任——大学

※メーカーの品質保証

	大学	自動車メーカー
使命	良質な教育サービスの提供	良質な自動車の提供
品質への責任	内部質保証	社内の出荷前品質検査 品質不良 ⇒ 製造工程の改善

# 質保証の方式

当初

「入口」=インプット管理  
入試⇒学生の質  
設置審査⇒大学の施設／組織  
「しかるべき資源投入⇒しかるべき結果」



教育の「結果」  
とは？

学習の成果  
⇒ 「学修成果」

# 学修成果のタイプ

	定量的タイプ	定性的タイプ
	計数的指標	「能力」を下敷きにした記述
例	留年/退学率、標準年限卒業率、就職率、卒業後所得	DP、CPでの人材像 学術会議の参照基準
長所	分かりやすい 測定容易	内容的・直接的 「機械工学を学んだ ⇒ エンジンが設計できる」
短所	外形的・間接的 「機械工学を学んだ ⇒ 高収入」	曖昧、測定が困難
備考		人材像をいかに具体化するか

# 内部質保証の多層さ

内部質保証：

所期の学修成果の達成をチェック

⇒大学自らが「製造物」の品質の維持・向上

自己点検＋改革・改善

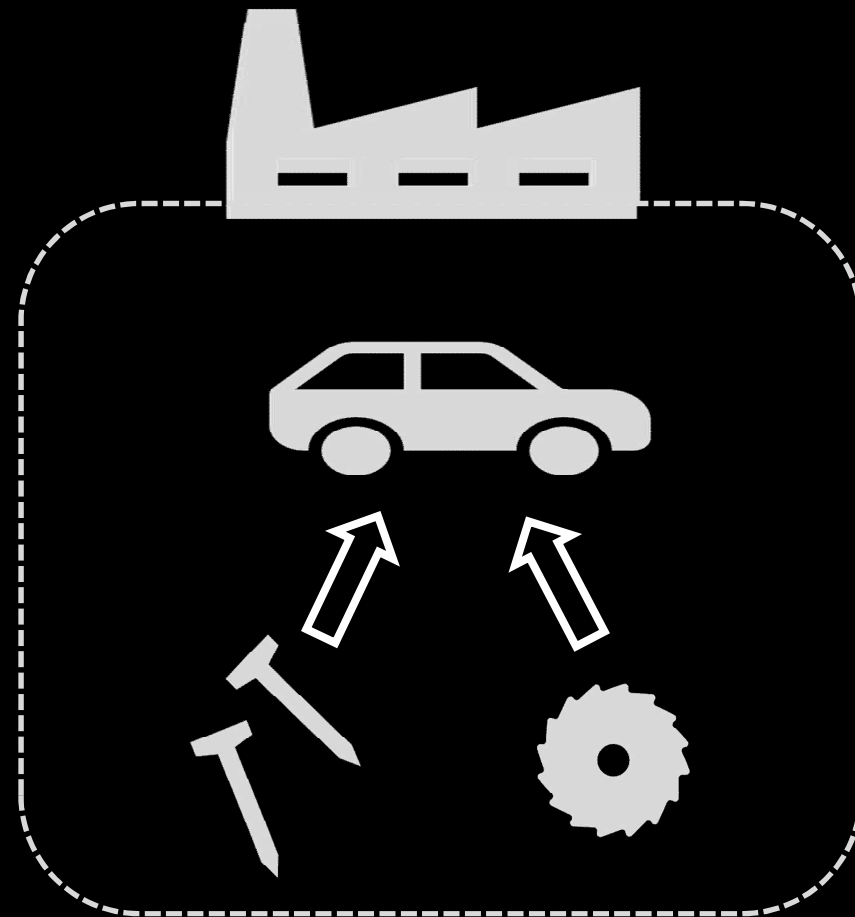
（広義の理解：自己点検）

内部質保証の3つの層

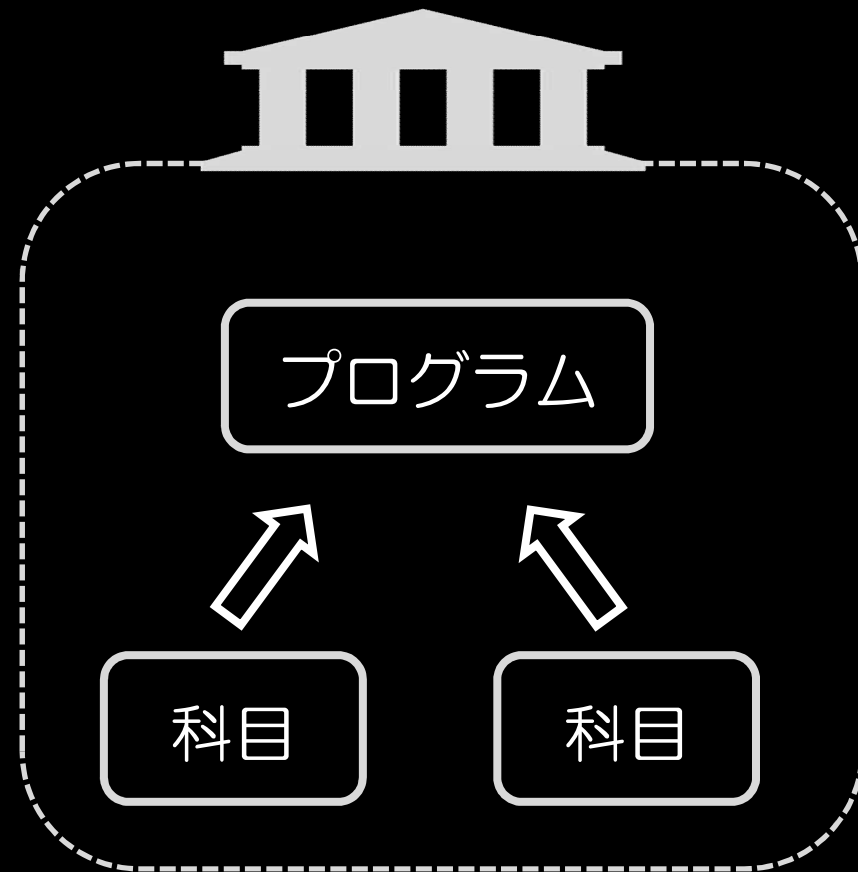
1. 個々の科目（教員）
2. 教育プログラム（専攻・コース???)
3. 教育機関（学部・大学）

# 内部質保証の3つの層

自動車メーカー



大学/部局



# プログラムとは？

プログラム：

所定の教育目標達成のために

体系的に編成された一箇の完結的な科目群

修了資格付き：学位プログラム、夏期講習

修了資格なし：共通教育

「プログラムを基礎とした組織」「教教分離」の議論

学部・学科・専攻との相違

1. 教員組織と教育組織の分離  
⇒ 機動的な教員配置
2. 教育課程として高い完結性

# 科目の次元での質保証

## P局面

- ①目標とする能力の設定、学修目標の設定
- ②教授学習法の考案、教材開発、評価法の考案

## D局面

- ③学修目標の達成に向けた授業運営

## C局面

- ④学生の成績評価、学生アンケートの実施
- ⑤科目が所期の学修成果の達成度を点検
- ⑥目標未達の学修成果について理由の分析

## A局面

- ⑦科目設計を修正



# プログラムの次元での質保証

## P局面

- ①目標とする能力の設定
- ②各科目への目標能力の配分（カリキュラムマップ）

## D局面

- ③各科目の授業進捗を確認

## C局面

- ④各科目の成績、学生アンケート（モニタリング）
- ⑤プログラムとしての学修成果の達成度（プログラム・レビュー）
- ⑥目標未達の理由の分析

## A局面

- ⑦修正のための措置を考案・実施

# 機関の次元での質保証

プログラム次元でのPDCA局面を監視

全学/学部的な監視の制度

必要な資源の提供

外に対する質の説明責任

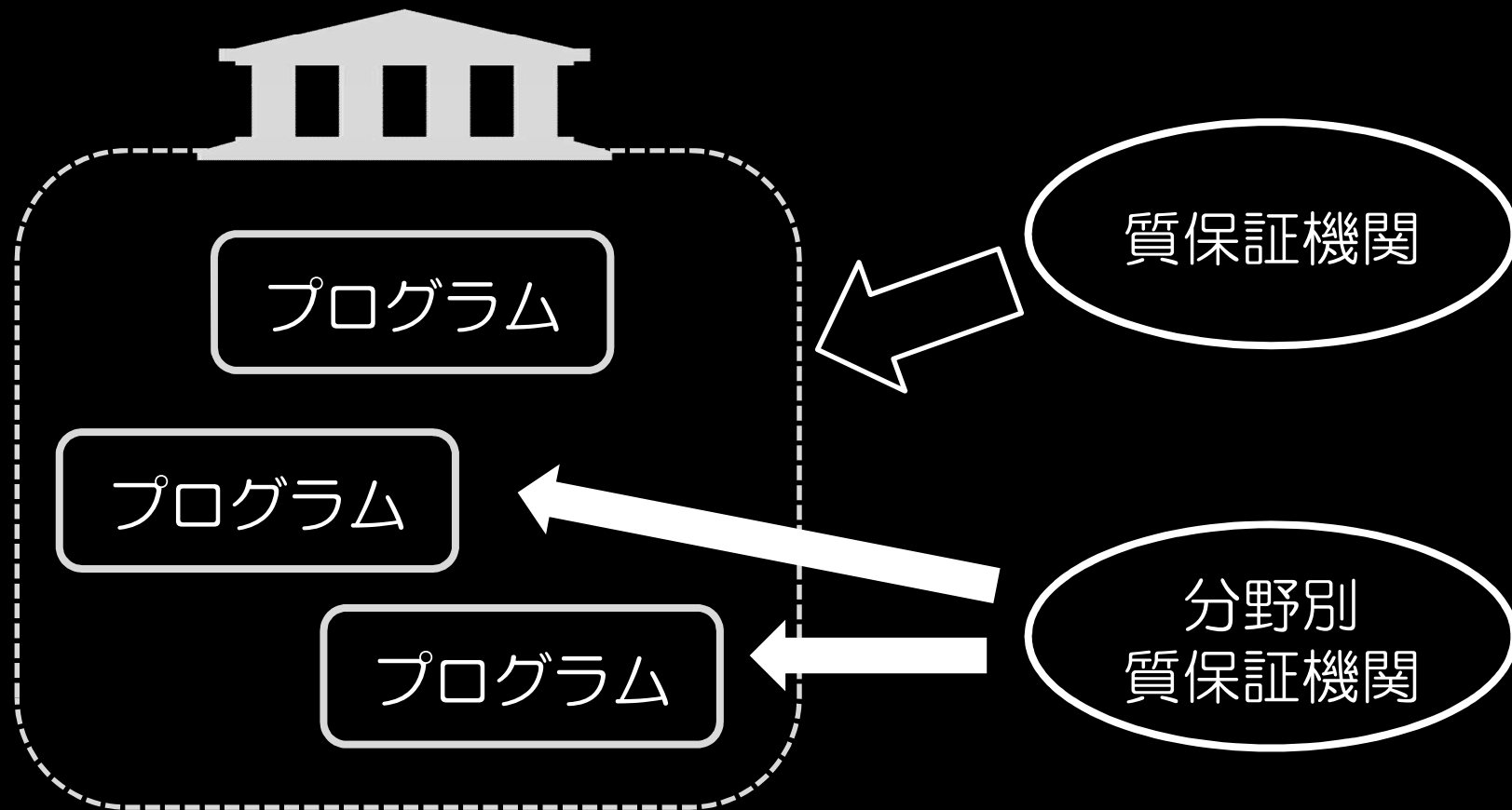
機関としての仕組み

3ポリシー単位（＝プログラム質保証）との関連

部局（＝資源配分権限）との関連

# 内部質保証と外部評価

大学/部局



ありがとうございました。